

2021年度 伊那西高等学校 学校自己評価

重点方針		掲載頁
1.	「建学の精神」の共有	
2.	入学者の確保	
3.	教育の質の向上	
4.	学生・生徒・園児に対する支援の充実	
5.	地域貢献・地域連携活動の推進	
6.	PTA・同窓会との協力	
7.	進路支援の強化・充実	

注記

上記「重点方針」ならびに、以下の「重点方針」に基づく「事業目標」及び「評価指標」は、高松学園中長期的計画を示したものであるため、原則としてそのままの記載となっている。

学校運営全般にわたっての反省並びに来年度に向けて

今年度も新型コロナウイルスの影響を大きく受け、学校生活全般に支障が生じてしまった。行事の多くが、中止あるいは縮小となり、クラブ活動も休止の時期があったり、大会やコンクールが制約の中での実施となったりと、生徒にとって大切な時間や機会が奪われることになり、大変残念であった。

しかしその中であっても、生徒たちは、その時々で工夫を凝らし、精一杯の取り組みをしている姿が印象的であった。また、平時であれば、当たり前なこととして気にとめていなかったようなことが、実は、当たり前ではなかったと気づく機会にもなり、皮肉なことではあるが、生徒の成長に寄与できる面もあったかと思う。

保護者に対して、急な対応や特別な対応をお願いするような場面も多岐にわたってあったが、多くの協力をいただき、スムーズな運営ができたことに対して感謝している。

また、地域の皆様との交流や協力は、限定的ではあったが、ご理解やご協力の下、執り行うことができ、感謝している。

学校の施設面としては、伊那市のご理解とご協力をいただき、下水の敷設が完了した。これにより、来年度からは、生徒たちの生活環境も良くなり、大変感謝している。

今後も、コロナの終焉が見通せない中ではあるが、工夫を凝らし、生徒の安全と成長を中心に置いた学校運営に努めたい。

【重点方針】	1. 「建学の精神」の共有
【事業目標】	宗教行事ならびに「仏教」（学校設定教科）の意義を再確認し、本校が存在する意味を明確にする。
【評価指標】	教員の研修への取り組み状況／生徒が何を学び何を考えたか

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
年間行事における意義の再構築	①宗教行事（釈尊降誕会・報恩講）の本校における位置を確認し、生徒の主体的取り組みを構築する。 (評価指標) 終了後、生徒が何を学び何を考えたか。欠席者を0にする。	宗教科 HR
学年行事における意義の再構築	①「東本願寺研修」（1年生）を通じ、本校生徒として、どのような高校生活を送るべきかを自覚する。 (評価指標) 終了後、生徒が何を学び何を考えたか。欠席者を0にする。	宗教科 HR
授業による意義の再構築	①「仏教」の授業を通じて、毎日の生活を振り返り、人としていかに生きるべきかを考えながら生活できる人になるように努力する。 (評価指標) 生徒が毎日の生活とどう結びつけ、自分の生活にどんな変化をもたらしたか。	宗教科 HR
教員研修	①初任研修、宗教研修、宗教担当者研修への参加 (評価指標) 研修報告書の提出	管理職 宗教科

今年度の主なる留意点
<p>1. 生徒が、宗教行事を通して、自己を見つめ、自己のあり方について考えられるようにする。 (1) 積極的な参加ができたか。 (2) 自己を見つめることができたか。</p> <p>2. 教員が、宗教行事を通して、生徒の成長を確認し、成長のサポートができるようにする。 (1) 宗教行事の意味をきちんと伝え、生徒の積極的参加に寄与できたか。</p> <p>3. 学校設定教科（宗教）と総合的な探究の時間との連携を高め、生徒が探究活動を通して、建学の精神を具現化できるように方向付ける。</p>

反省並びに来年度に向けて
<p>宗教行事、教員研修などの中止・縮小が相次ぎ、例年通りの活動ができなかった。その中ではあるが、釈尊降誕会、報恩講ともに、例年に少し近づけた形での実施がかない、安堵している。</p> <p>釈尊降誕会については、感話発表者を各学年1名に限定し、合唱は合唱クラブの生徒によるなどで感染防止に努めた。報恩講は、講師として三重県西恩寺から池田 徹先生をお迎えし、「生きる意欲－苦悩する力－」という講題でご講演をいただいた。この際にも全校合唱は、最小限に抑えることになったが、無事法要を終えることができた。</p> <p>1年生に予定されていた東本願寺研修は、当初の10月予定を1月に変更としたが、コロナ拡大に伴い、延長となった。また、2年生は、昨年度実施できなかった東本願寺研修を、滋賀県のホテル利用という形ではあるが、12月に実施できた。</p> <p>来年度も、コロナウイルスの影響を大きく受けることが予測されるが、臨機応変な対応をし、少しでも生徒並びに教職員の建学の精神の確認や成長の糧となるように努力したい。</p>

【事業目標】	あたりまえなことをあたりまえにできる生活を徹底し、本校の原点を研ぎ澄ます。
【評価指標】	あいさつ、清掃、身だしなみの3要素において、伝統のスタイルを維持できているか。

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
挨拶の励行	①「あいさつ」の励行を徹底し、互いに気持ちの良い生活ができるようにする。 (評価指標) 校内外の人に対して、気持ちの良い(形式的でない)挨拶ができているか。	生徒指導 HR
清掃の徹底	①清掃活動を通して、奉仕の精神を磨くとともに、丁寧な生活者としての基盤を養う。 (評価指標) 清掃開始時間に全員が清掃場所にいるか。時間いっぱいの清掃ができているか。計画的な清掃が行えているか。	美化委員会 HR
身だしなみの端正	①TPOに応じた服装、所作、表現の大切さを知り、円滑な人間関係を構築できるようにする。 (評価指標) 身だしなみを注意される生徒がいない。	生徒指導 HR

今年度の主なる留意点
<p>1. 「縛られ感」や「やらされ感」を持たず、生徒が実践できるようにする。</p> <p>(1) 生徒が、「理由」を理解した上で、実践しているか。</p> <p>(2) 生徒が、自分のそのような姿に誇りを持っているか。</p> <p>(3) 家庭、地域などの場面においても、同様の実践が行えているか。</p> <p>(4) 教員の温度差をなくし、同一の価値観と視点で指導に当たっているか。</p>

<p>反省並びに来年度へ向けて</p> <p>挨拶、清掃、身だしなみの3点については、概ね良好に実践できていたと考える。</p> <p>今年度の保護者アンケートの結果から、通学時に使用するコートに対する希望が多かったことから、これまでの申し合わせを若干変更し、コートのタイプや色などの制約を緩和した。</p> <p>また、ソックスについても、これまで、夏用、冬用としていたものを、通年、いずれのタイプでも良いことに変更した。</p> <p>全国的に、校則を見直すという流れの中にあって、本校の校則(申し合わせ事項)についても、見直しの時期にあるように感じる。しかしながら、本校のあり方を大切にしていかなければならないというのが本筋であるという視点は失うことがないように留意したい。</p> <p>保護者アンケートでは、アルバイトに対する希望が多く寄せられた。これについては、上伊那の高等学校すべての申し合わせ事項であるが、それが実践されていない学校が多いことがその背景にある。改めて、校長会などでの問題提起としたいと考えるが、一方、時代性を鑑みた対応が必要な時期になっているとも考える。</p>

【重点方針】	2. 入学者の確保
【事業目標】	入学者を安定的に確保し、活力と経済力のある学校作りを行う
【評価指標】	旧第8通学区から160人以上の生徒が確保できているか。 旧8通学区以外から10名以上の生徒が確保できているか。

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
本校の特色の明確化	①宗教教育、女性教育という本校の特徴を明確にし、その良さを発信する。 (評価指標) HPなどで学校方針が適切に発信できているか。	管理職 生徒募集 広報
入試方法の改定	①地域の公立校、周辺の私立高校の入試方法を考慮し、適切で効果的な入試方法を設定する。 (評価指標) 入試方法の改定が行われたか。	管理職 学校改革 生徒募集
コース制の見直し	①本校の特徴が明確に示せるコースを設定し、それぞれのコースの目標を可視化するとともに、内容の充実を図る。 (評価指標) 令和3年度入試より新しいコース制による入試が実施されるか。	管理職 学校改革 生徒募集
通学方法の見直し	①遠方からの通学、交通至難地域からの通学に備え、スクールバスを充実させる。 (評価指標)	管理職 学校改革
施設設備の充実	①生徒の学習活動やクラブ活動がより効果的かつ安全に行えるような施設設備を整える。 (評価指標) 調理室のリフォーム、自習室の確保、図書館の整備、クラブ活動施設の充実ができたか。	管理職 学校改革

今年度の主なる留意点
<ol style="list-style-type: none"> 昨年度(令和3年度)入試を検証し、今年度入試のあり方を策定する。 <ol style="list-style-type: none"> 近隣の公立・私立学校の入試方法に照らして、効果的な入試方法となっているか。 本校の「良さ」を明確にし、それが可視化できるようなコース制を導入する。 <ol style="list-style-type: none"> 本校の「良さ」を言語化できているか。 地域、時代のニーズに合わせたコース制が構築できているか。 高等学校等就学支援金の充実に伴い、公私の授業料格差が縮まったことを周知する。 「募集委員会」を中心に、広報、啓蒙活動を行う。

反省並びに来年度へ向けて
<p>旧第8通学区においては、公立高校の定員が昨年度比1クラス増となった。中学卒業生総数の増加によるものであるが、当地区においては、例年定員割れが続く中で、理解に苦しむ措置である。それに伴い、今年度も、目標とする生徒数確保には至らない模様である。ただ、募集委員会を中心とした募集活動は、新しい試みも導入され、今後の展開に期待ができる。</p> <p>コース制の変更、施設設備の充実など、課題は山積であるが、上伊那の高校再編が具体的な形を見せつつあることを考慮し、本校のあり方について、議論を深め、適切な措置を講じていかないとならない。</p>

【重点方針】	3. 教育の質の向上
【事業目標】	授業満足度を高め、「わかった」「できた」という授業にする。
【評価指標】	基礎学力模試（進路マップ）の評価において、80%がC以上の評価を受けるようになる。

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
新しい教育方法の促進	①ICT教育を推進し、探求型授業の構築に努める。 (評価指標)すべての教員が、ICTを積極的に活用し、探求型授業の促進を行ったか。	学習
	②アクティブラーニングを推進し、新しい入試方法に対応できる力を養成する。 (評価指標)すべての教員が、アクティブラーニングの方法による授業を行い、参加型授業の促進を行ったか。	学習
授業満足度の向上	①授業評価アンケートを実施し、授業改善に努める。 (評価指標)授業アンケートを年2回実施し、各自の授業にどのように反映できたか。	学習
	②ユニバーサルデザインの精神を取り入れた教育を実施し、すべての生徒にとって分かりやすく力の伸長が望める授業を実施する。 (評価指標)どんな工夫ができたか。	学習
教員研修の積極的実施	①教科教育方法における最新情報を知り、技術的向上を図る。 (評価指標)教科会の充実。入試問題の作成。	教科
	②基礎教養の充実を図り、広く生徒の啓蒙に努める。 (評価指標)平成32年度までに、自己研修制度の作成	管理職
	③互いの授業を見学し合うことで、切磋琢磨に努める。 (評価指標)年間5時間以上の授業見学。	学習

今年度の主なる留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の学習に対する意識を高め、基礎力の向上に努める。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 通常の授業が計画通りかつ効果的に行われているか。 (2) 日常的に学習習慣が身につく、家庭学習が恒常的に行われているか。 (3) 基礎力テスト、模擬試験における評価が高まっているか。 2. 新しい指導法を積極的に取り入れ、新しい「評価」に対応できるように努める。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 探究型授業の研究および実践が効果的に行われたか。 (2) 教員が積極的に研修に参加し、自己研鑽に努めたか。 3. 英語教育の充実 <ol style="list-style-type: none"> (1) オンライン英会話などの導入により、「聞く」「話す」の充実ができたか。 4. 新学習指導要領に基づくカリキュラムの作成 5. ICT教育、ALを充実させ、本校の特徴の一つとして発信する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 1年生のタブレット端末ことばだけの教育効果が得られたか。 (2) ICTを活用し、課外学習や家庭学習の充実が図れたか。 (3) 遠隔授業に対してのガイドラインが作成できたか。

反省並びに来年度へ向けて

今年度、1年生全員にタブレット端末 (ipad)の配布を行い、それを活用しての授業が本格化した。教員のスキルも高まり、効果的な授業展開がなされるようになってきた。

さらに、遠隔授業に対してのガイドライン作成が係を中心として進捗し、教員並びに生徒が対応できるような枠組みが完成した。

進学指導要領に基づくカリキュラムも作成でき、来年度の授業の準備を整えることができた。

基礎学力の伸長という点については、教員の工夫と努力によって、毎年その度合いを高めている。今後も、丁寧で効果的な指導を続けていきたい。

「総合的な探究の授業」については、年間計画に従って、効果的な指導ができ、生徒の取り組みに進度が増したことが、「発表」によっても明らかである。また、3年間を通じて取り組んだクラスでは、その成果が進路実現に繋がるという効果も見られた。その一方、担任の負担が大きい、活動に制限が生じるといった解決すべき問題もある。来年度は、今年度まで使用したテキストを用いずに実施するという方針が提出されているが、さらなる工夫が必要になるものと考えられる。

【重点方針】	4. 生徒に対する支援の充実
【事業目標】	生活満足度を高め、「楽しい」「成長した」が実感できる校内生活にする。
【評価指標】	入学生の95%以上の生徒を卒業させる。 95%以上の生徒がクラブに所属し、クラブ目標に添って活動できているか。

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
教育相談にかか る支援の充実	①スクールカウンセラーによる専門的なアドバイスに基づく助言・援助を充実させる。 (評価指標) SCが継続的に配置されているか。	生徒指導 特別支援
	②教員同士、あるいは家庭との連携を密に取り、皆で一人の生徒を見守り、育てるという体制を整える。 (評価指標) 転退学者5%以内とする。	生徒指導 学年会
クラブ活動及び 生徒会活動の充 実	①クラブ加入率を高め、生徒の達成感とさらなる目標設定の支援を行う。 (評価指標) クラブ加入率95%以上とする。 クラブ活動における成果が、生徒の満足するものであるか。	学年会 課外活動
	②生徒会活動の自主性を高め、生徒の達成感とさらなる目標達成の支援を行う。 (評価指標) 生徒会主催行事が、生徒の満足するものであるか。 従来の活動に加えて、どんな活動ができたか。	生徒会
	②施設、設備を整え、安全で効果的な活動ができるようにする。 (評価指標) クラブ活動場所が適切に確保されているか。 クラブ活動資金が適切に準備執行されているか。	管理職 課外活動

今年度の主なる留意点

1. 担任、学年主任、係が連携して、生徒の日常を観察理解し、情報を共有する。
 - (1) 学年会が適切に運営されているか。
 - (2) 三者の相互連携が図れているか。
2. クラブ活動が「活動の指針」に基づき、効果的かつ教育効果が高まる活動を行う。
 - (1) 「活動の指針」が顧問、生徒、保護者の間で共有され、実践できているか。
 - (2) 生徒が活動を通して、自己発見と自己研鑽ができてきているか。
 - (3) 教員ならびに適切な「休み」を取り、活動が行われているか。
3. SCのありかたが変化するため、新しい方式を確立させる。
 - (1) 昨年までと同様な効果が得られるような工夫がなされたか。
 - (2) 教員のスキルが高められたか。

反省並びに来年度へ向けて

担任、学年主任、係の連携という面については、必ずしも十分といえない状況が散見した。それが生徒の状況に少なからぬ影響を与えてしまったこともあり、反省事項としたい。

クラブ活動については、加入率は目標をクリアすることができており、それぞれが独自の活動を行い、一定の成果が表れた。しかしながら、コロナ禍にあって、クラブ活動の休止がやむなくさせられたり、内容に制限がなされたりと、生徒にとって十分な満足が得られたものではなかった点が残念であった。

SCの恒常的配属がなくなり、必要に応じて対応していただける形に変わった。このことが、大きな影響を受けたかどうかという判断は現時点では不明であるが、生徒や家庭環境が多様化する中で、今後の検討材料であることは確かである。さらに、私学には行政で行っているSSWの派遣がないが、生徒を福祉につなげるという道の確保が、今後ますます大切になっていくことが予想される。

学園としての課題としていくべきである。

【重点方針】	5. 地域貢献・地域連携活動の推進
【事業目標】	地域と恒常的かつ効果的に連携が整い、生徒の成長に寄与させる。
【評価指標】	生徒が地域の一員としての自覚を高めているか。 地域の本校理解が進んでいるか。

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
地域との恒常的な連携の構築	①地域の活動に加わり、生徒の社会性の向上を図る。 (評価指標) 生徒の関わり状況と生徒が何を学んだか。	課外活動
	②本校の諸活動に地域の協力をいただき、本校に対する理解度を高める。 (評価指標) 地域からどれだけの声かけをいただいたか。	課外活動

今年度の主なる留意点

1. 地域との連携を深め、地域に根ざした学校作りをする。
 - (1) 生徒が地域との関わりを通してどのような学びを得たか。
2. 課外活動の「成果」「実績」を重ね、それを効果的に発信する。
 - (1) 広報が効果的に行われたか。
 - (2) 地域からの要請にどう応え、それをさらにどのように発展させることができたか。

反省並びに来年度へ向けて

コロナ渦により、地域との連携や交流も限定的なものになった。
 その中であっても、地元企業からの依頼や行政からの委託を受ける機会もあり、本校が地域との連携の中にあることが改めて確認できたことはありがたかった。

【重点方針】	6. P T A ・同窓会との協力
【事業目標】	P T A ・同窓会と協力し、学校運営を活発化する。
【評価指標】	P T A ・同窓会が積極的に学校運営に参加したか。

施策名	内 容	関連部局 (担当部局)
P T A と連携 P T A からの理 解と協力	① P T A 活動のあり方を再検討する。(学校行事・講演 会・公開授業・P T A 研修など) (評価指標) P T A の積極的な参加があったか。本校の 教育活動に理解と協力が得られたか。	管理職 P T A
同窓会との連携 同窓会からの理 解と協力	① 同窓会活動に対して、同窓生の積極的な参加を促す。 (評価指標) 同窓生が本校の教育活動に興味を示し、同 窓会活動や募集活動に協力的になったか。	同窓会

今年度の重点項目および留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1. P T A ・同窓会の発信力を高める。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 活動内容や活動の重要性を周知できたか。 2. P T A ・同窓会の本校に対する意見や希望を吸い上げ、学校発展の手がかりとする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「保護者アンケート」を効果的に実施し、検証できたか。 (2) 同窓会の出席者を増やし、同窓生の声を聞くことができたか。

反省並びに来年度へ向けて

P T A 活動は、ほとんどが中止になり、残念な一年となってしまった。
 P T A 総会や、評議員会は、紙上投票・決議となり、懇親スポーツ大会など、保護
 者と一緒に活動できる機会は皆無であった。
 学校運営には、保護者のご理解とご協力が必須であるが、その機会を失うことは、
 とても残念である。来年度も、コロナの完全終息は見通せない中、何らかの方法を見
 いだしていきたい。
 今年度も保護者アンケートを実施した。すべて紙ベースでの実施に戻したが、概ね、
 本校に対して良好な感想を抱いているご家庭が多く、本校のあり方として、一定の評
 価が得られていると考える。その中で、服装やアルバイト実施など、要望も多く寄せ
 られ、一部は改訂を行ったが、今後も検討材料としていきたい。

【重点方針】	7. 進路支援の強化・充実
【事業目標】	100%の進路保証
【評価指標】	卒業生の100%が進学・就職先を決めて卒業する。

施策名	内 容	関連部局
進路の多様性の周知	①進路ガイダンスを適切に実施し、多様な進路があることを周知させる。 (評価指標) 生徒の進路志望と進路状況に合ったガイダンスであるか。	進路指導
	②体験入学やインターンシップなどを通じ、適性を見極めをするとともに、努力目標を設定させる。 (評価指標) 進学希望者が複数校の体験入学に参加できたか。就職希望者がインターンシップに参加し企業から良好な評価がいただけたか。	進路指導 学年会
ポートフォリオの作成	①ポートフォリオのシステムを構築するとともに、生徒自らがその充実を図れるように支援する。 (評価指標) 平成30年中にeポートフォリオのシステムを構築する。	学習 進路指導 教務
高大連携授業の推進	①姉妹校ならびに関連学校を中心とした高大連携授業を推進し、建学の精神を体現するとともに、広く学問に触れる機会とする。 (評価指標) 参加した生徒が何を学び自己の進路にどう役立てたか。	学習
	②高度な学習機会を得ることで、向学心を刺激し、自己研鑽の必要性を認識させる。 (評価指標) 参加した生徒が何を学び自己の進路にどう役立てたか。	学習
大学進学実績の向上	①大学入学者選抜改革に対応したカリキュラムの構成を行い、一般入試における生徒の受験力向上に努める。 (評価指標) 令和2年度までに新カリキュラムを作成する。進学希望者の90%以上が第1志望の学校に合格できる。	進路指導 教育課程
	②基礎学力を強化し、AO入試、推薦入試における生徒の学力向上に努める。 (評価指標) 平成31年度より「基礎学力試験」を実施し、生徒の学力の実態を把握するとともに、どれだけ成績を向上させられたか。	進路指導
就職支援の充実	①地元産業または地元企業に対する理解を深め、適切な進路選択ができるように支援する。 (評価指標) 就職希望者の100%が就職できる。	進路指導

今年度の主なる留意点

1. 生徒・保護者に対して、適切かつ効果的な進路指導を行う。
(1) ガイダンスが生徒・保護者にとって効果的に行われたか。
2. 新入試制度に対応したカリキュラムを構築する。
(1) 本校の実態に照らしながら、本校を方向性を示せるカリキュラムが構築できたか。
3. 生徒の希望に添った進路を提供する。
(1) 進路の多様性を示すことができたか。
(2) 当該生徒に適した進路の情報を提供できたか。
(3) 生徒の進路実現が図れたか。
4. 新学習指導要領に基づくカリキュラムを編成する。
(1) 本校の実態に合ったカリキュラムが編成できたか。
5. 探究的な学習の時間の構築と実施
(1) 目標にあった取り組みができ、それによって生徒の成長が見られたか。

反省並びに来年度へ向けて

ガイダンスやオープンキャンパスへの参加が制限される中ではあったが、係・担任を中心として、生徒たちには概ね適切な指導が行われたと考える。
その中で、生徒の大半は希望する進路実現ができ、目標がほぼ達成できた。
「総合的な探究の時間」は、年間計画に基づき、適切で効果的な指導が行われたことが、「発表会」で確認できた。
来年度入学生より、新学習指導要領での授業が開始となる。教科によっては、これまでとは内容が大きく変わるものもあり、来年度については、教員のさらなる研鑽と研修が必要となると考える。
機会を捉えて、積極的に研修を行い、生徒の学力伸長、進路実現に努めていきたい。